

第6回 中目黒駅周辺地区 交通バリアフリー推進懇談会 議事録

日時：平成 15 年 8 月 26 日（火）19:00～20:45

場所：目黒区総合庁舎 2階 大会議室

1. 開会あいさつ 目黒区都市計画課 計画担当課長
2. 目黒区交通バリアフリー推進基本構想（案）に関する説明 目黒区都市計画課
3. 中目黒駅周辺地区 基本構想（案）について意見交換

参加者からの意見 ・ 目黒区からの意見

交通バリアフリー推進地区と福祉まちづくり推進地区の違いは何か？

- ・ 目黒区では交通バリアフリー法の要件に合わない地区も、同じようなバリアフリー化を考えており、その他の地区については福祉のまちづくり推進地区としている。
- ・ 交通バリアフリー法では、特定事業を平成 22 年までに着手もしくは完成させるとしている。あわせて歩道幅員 2m の確保など要件が厳しいこともある。

交通バリアフリー法と東京都の条例の基準に違いはあるのか？

- ・ 段差の解消などの目指すバリアフリーの基準は同じである。

現実には、自転車や商店の看板など段差以外にもバリアがたくさんあるが、その対策はどのように考えているのか？駐輪場は無料にしてはどうか？また、商店の看板についても考えて欲しい。

- ・ 放置自転車対策は今回の交通バリアフリー推進基本構想にも盛り込んでいる。
- ・ GT タワーの駐輪場は 600 台収容のうち約 200 台の利用がある。上目黒一丁目再開発では、平成 19 年～平成 20 年を目標に 500 台収容の駐輪場の整備を予定している。
- ・ 駐輪場を利用してもらうことが課題と考えている。

目黒警察は歩道内の放置自転車には対応してくれない。駐輪場への誘導を徹底的に強化すべきである。山手通りの拡幅に併せてせっかく歩道を広くしても、放置自転車が増えてしまっでは意味がない。

- ・ 山手通りの拡幅に併せて、そのようなソフト策も課題と考えている。

交通バリアフリー基本構想に入れただけでは解決できない事など、長期的な課題は他にもあるので、さらに検討していく必要があるのではないか。そのための記述を入れた方がよいのではないか。

中目黒立体から共済病院の間は歩道が狭いが、拡幅することはできないのか？

- ・ 警視庁・東京都との協議では、現状では拡幅は難しいとの回答があった。しかし、全く

できないという結論ではないので、引き続き協議をしていく予定である。

- ・ さらに長期的には、道路全体の幅員構成を見直すことも検討していく必要がある。

視覚障害者に配慮した音声による誘導はあるとよい。

- ・ 高田馬場の事例のように、音声で案内するしくみの導入についても検討していきたい。

目黒区全体をバリアフリーにすることを考えると、駅から半径 500m の外側についても長期的にはバリアフリーとしたい。今後、技術も進歩するので考え方として基本構想の中に盛り込めないか？

- ・ 目黒区で策定中のマスタープランでは、全体をバリアフリーにしていくという方針を入れている。
- ・ 今回目黒区で作成を進めている交通バリアフリー推進基本構想は、個別事業の実施を前提としているので、そのような記述はなじまないと考えている。

各駅を中心に地区が設定されているが、隣駅との連続性がない所（池尻大橋と中目黒、武蔵小山と西小山など）については、経路に連続性を持たせた方が良いのではないか。

バスの車両についても考え方として基本構想の中で触れた方が良いのではないか。例えばノンステップバスの導入を働きかけるなど。

山手通りの歩道は広がる予定ではないのか？

- ・ 歩道の幅員は 5m で計画されており、現在の歩道の幅員より広がる予定である。

やわた歩道橋の改修等はできないということなのか？歩道橋自体が不用ではないか？

- ・ 平成 22 年までの改修等は難しいと考えており、共済病院へは目黒川舟入場からのルートを想定している。
- ・ 歩道橋の撤去については、通学路などバリアフリーとは別の問題もあり、すぐに答えが出る問題ではない。

駅から半径 100m のエリアには健常者にとっても問題がたくさんあるので、そこをどうするかに重点を置いて考えてほしい。モラルに頼っていては進まないなので、対策を進めることが重要である。

- ・ 都立大学では、地元協議会を作って自転車対策を検討している。中目黒ではまだそこまでいっていないので考えていきたい。

4. 今後の予定について

- ・ 本日はいただいた意見は検討し、引き続き東京都・警視庁などと協議を進めていく。
- ・ 12 月までにさらに具体的な内容がまとまった段階で懇談会を再度予定している。
- ・ 来年度、事業が具体化できるように進めていきたい。

以上